

---

---

## 3. 工事の実施状況（平成28年11月～平成29年5月）

---

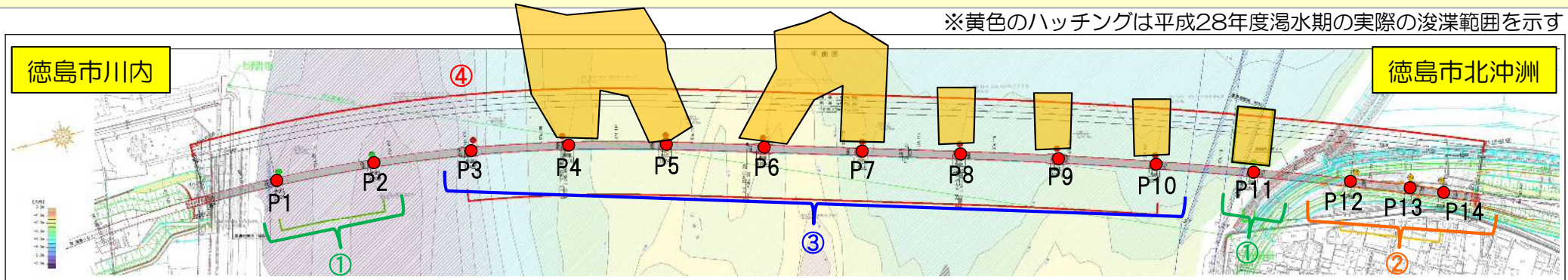
---

# 3-1 工事の実施状況①



平成28年11月より開始した工事の実施状況を以下に示す。 ※全ての橋脚に着手済。

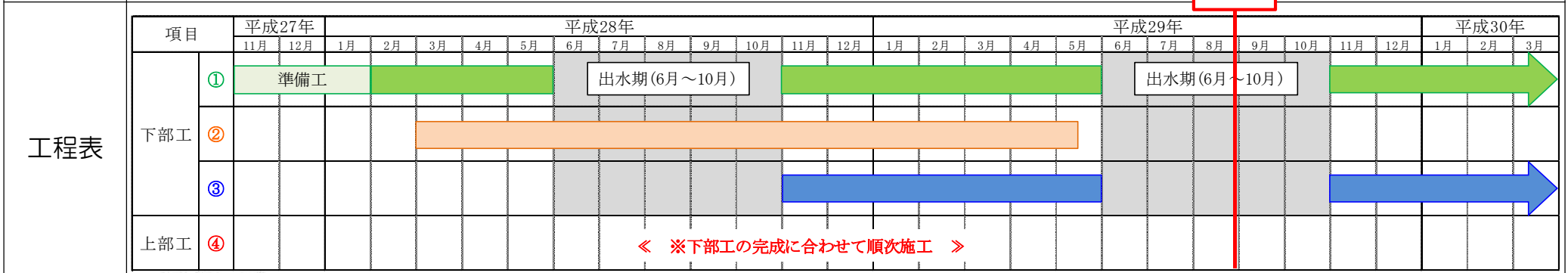
※黄色のハッチングは平成28年度渇水期の実際の浚渫範囲を示す



下部工	①について(P1, P2, P11) 平成27年度渇水期より工事着手し、平成28年度渇水期も継続して施工。平成29年度渇水期も施工予定。
	②について(P12, P13, P14) 平成27年度末より工事を実施。平成29年5月で施工完了。
	③について(P3~P10) 平成28年度渇水期から順次工事を実施し、全ての基礎で鋼管杭打設終了。

上部工	④上部工整備 下部工の完成に合わせて順次工事を実施する。
-----	---------------------------------

現在



## ■3-2 工事の実施状況②

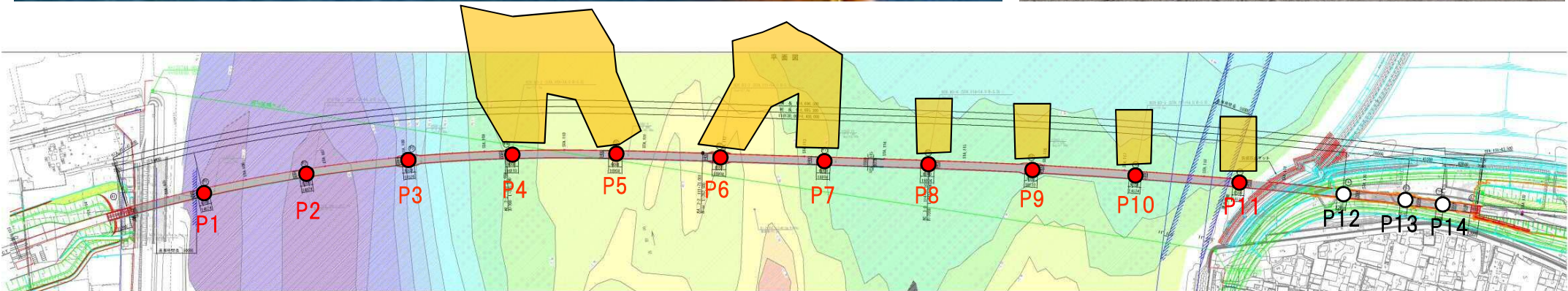
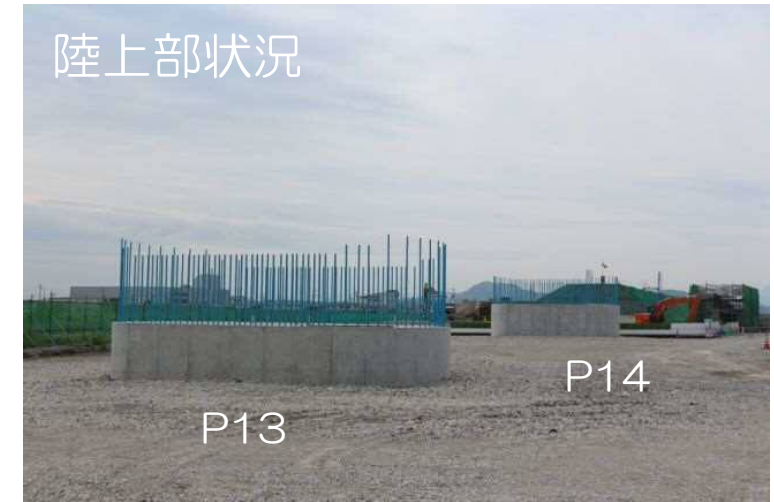
平成28年11月より開始した工事の実施状況を以下に示す。

- ①工事は予定通り、河川内全ての基礎工に着手。
- ②平成29年5月末時点では、鋼管矢板井筒打設が完了。
- ③P12～P14は橋脚施工完了。

### 河川内施工状況



### 陸上部状況

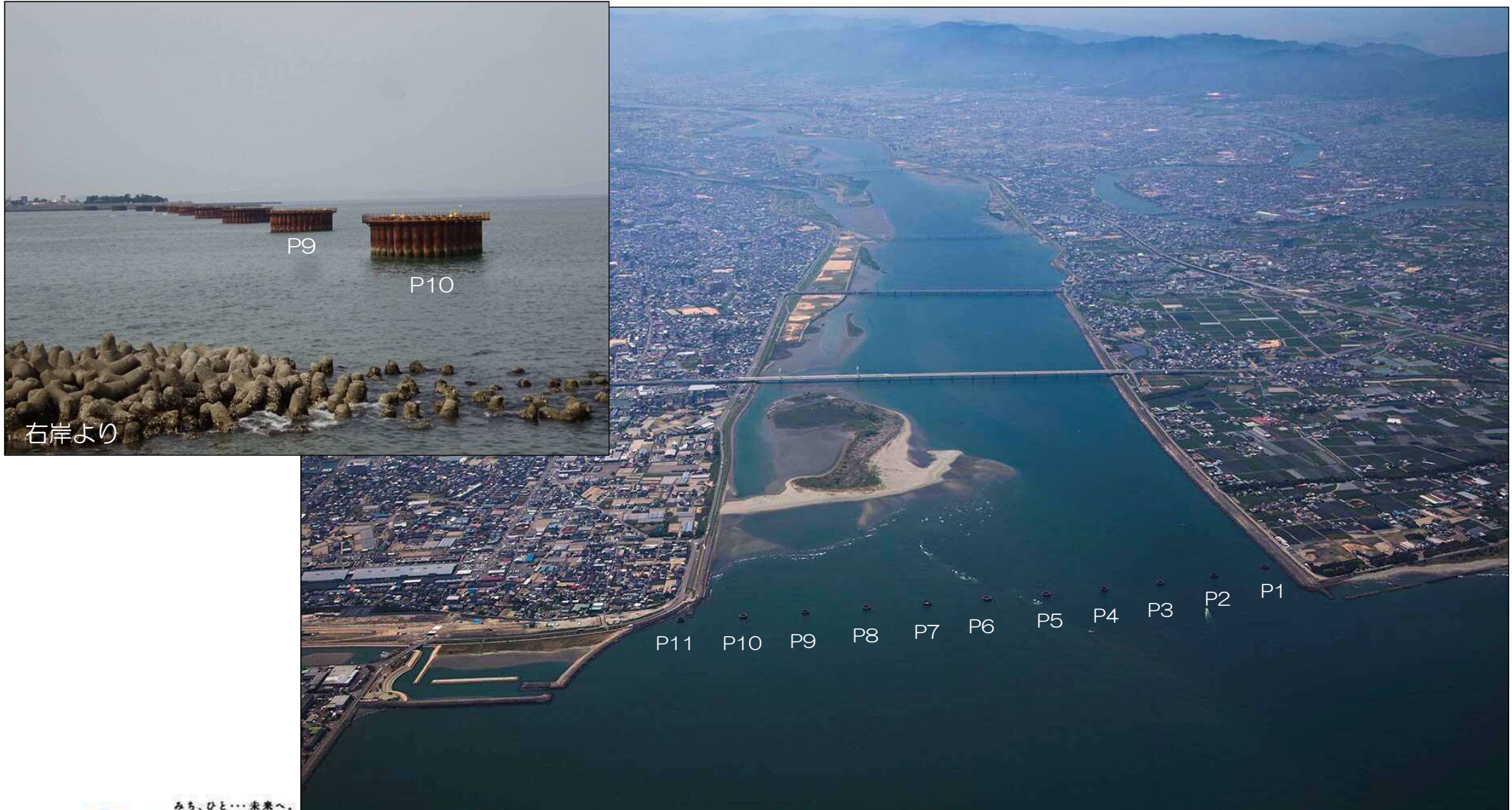


※黄色のハッチングは平成28年度洪水期の実際の浚渫範囲を示す

●：施工中箇所  
○：施工完了箇所

### ■ 3-3 工事の実施状況③

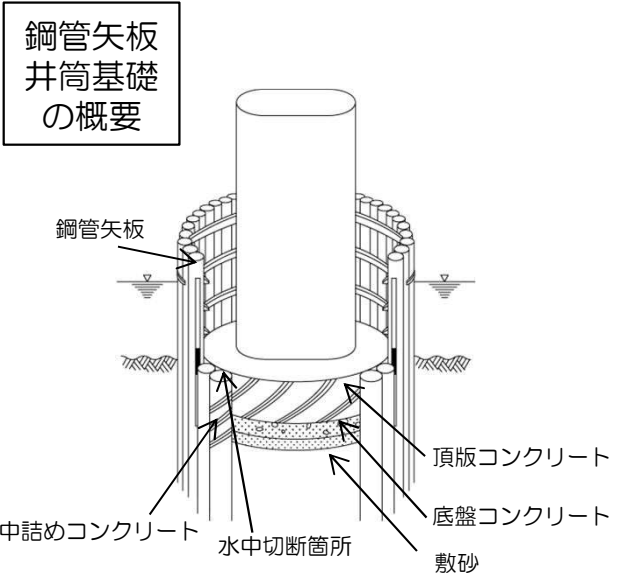
平成29年6月の状況を示す。



# ■3-4 工事の実施状況④



基礎工の施工の流れを示す。



### ■3-5 P4からP11周辺の浚渫に関して

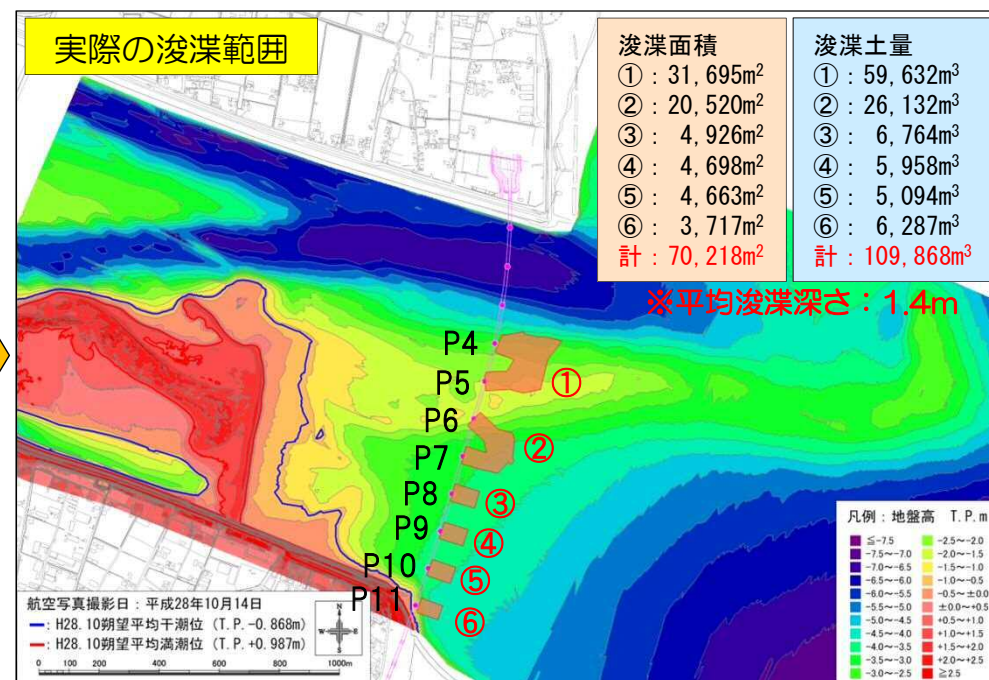
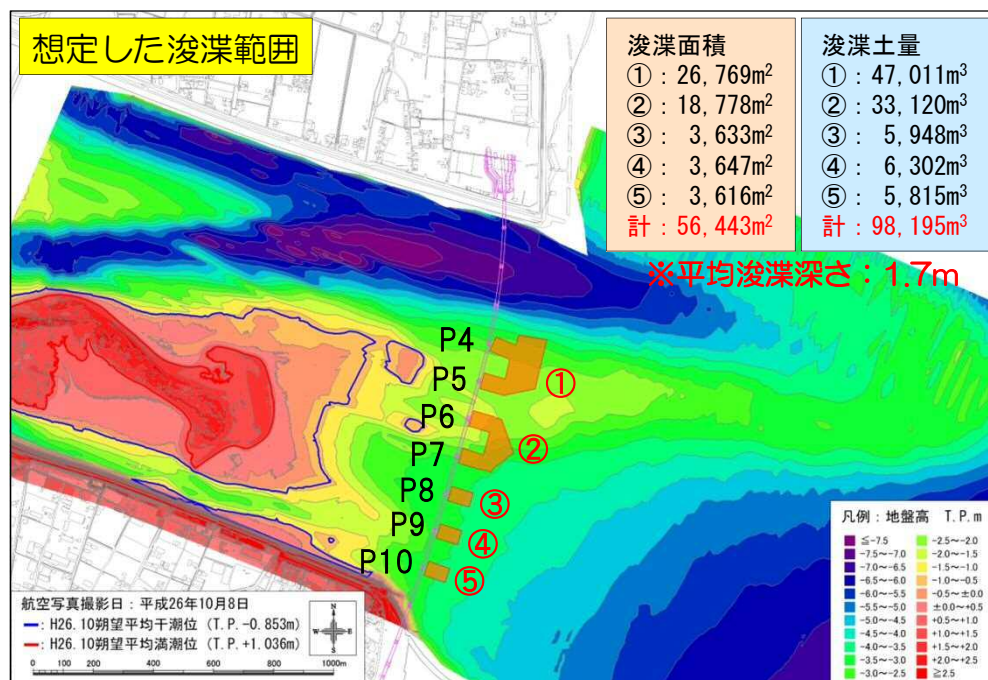


工事着手前の浚渫範囲の想定は、平成26年10月の地形調査結果に基づいていたが、平成28年渇水期の地形は計画時点より水深が浅くなっており、浚渫土量が想定よりも多くなった（+11,672m<sup>3</sup>）。

#### ■浚渫土量（m<sup>3</sup>）

項目	予定数量	実施数量	差分	割合
設計数量	62,238	69,074	+6,836	+11.0%
余掘数量	35,958	40,794	+4,836	+13.4%
計	98,195	109,868	+11,672	+11.9%

浚渫範囲①③⑥の浚渫土量が想定よりも多くなった。



環境保全対策として浚渫した土砂は陸上げしており、今後、盛土に転用する予定としている。

※浚渫面積及び土量の値は四捨五入をしているため、誤差が生じている

### ■3-6 浚渫の影響評価の事後検証



第7回検討会で報告した浚渫の影響評価に対して、実際の浚渫範囲に基づいた影響の事後検証を行った。  
 検討の結果、**区分1では影響値が若干減少し、区分2では影響値が増加した**。この原因として、以下の事項が考えられる。

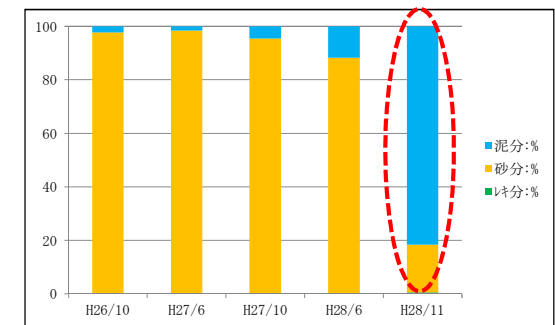
- ① 想定最大時の浚渫面積より、**実際の浚渫範囲の面積が大きかったこと**。→区分2の影響値増加
- ② 今回のハビタット区分の検討において、区分1と区分2の境界が変化し、浚渫範囲が区分1より区分2に大きく被る形となったことから、**浚渫の影響値の増減は区分1と区分2でトレードオフされたこと**。

#### ■各指標種の影響値の比較

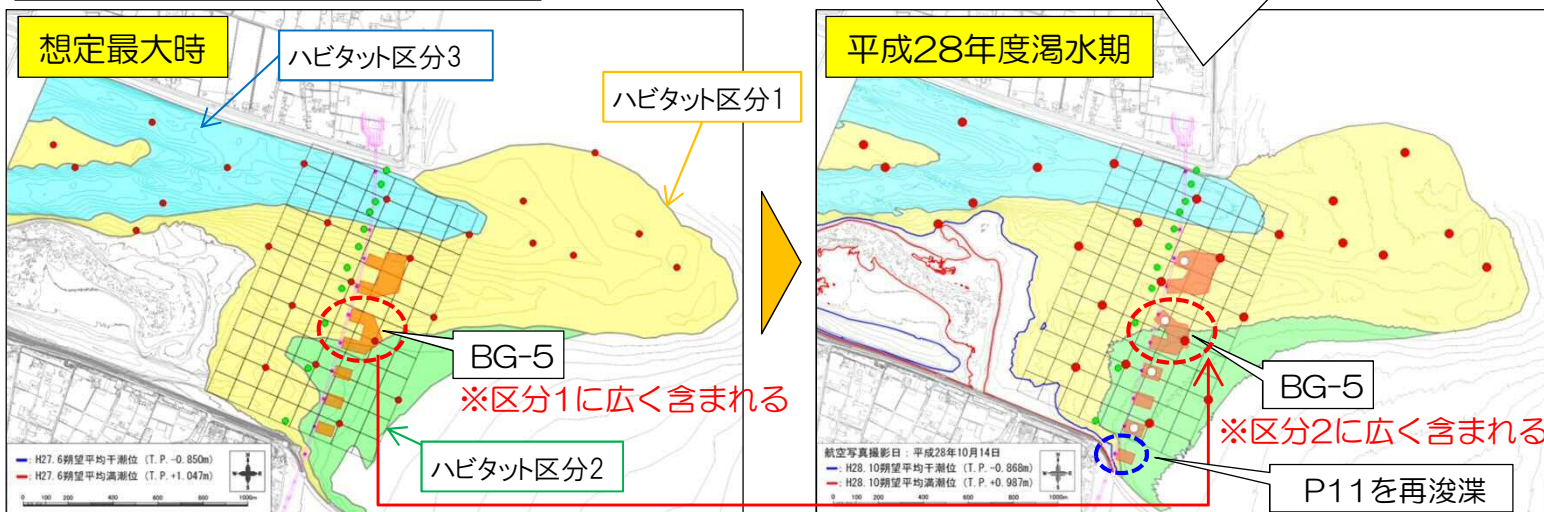
	指標種	想定最大時の影響値 (第7回検討会)	実際の影響値 (事後検証)
区分1	フジノハナガイ	4.0%	3.7%
	バカガイ	2.6%	2.4%
	ヒサシソコエビ科	2.7%	2.3%
区分2	チヨノハナガイ	4.3%	8.1% <b>増加</b>
	シノブハネエラスピオ		

BG-5は区分1と区分2の境にあり、H28.6調査まで常に砂質の環境であったためハビタット区分1に含まれる地点であったが、**BG-5の含泥率が上がったこと**から、本検討では区分2に含まれることとなった。

#### ■BG-5の粒度組成



#### ■区分1と区分2の境界の変化



※速報

この浚渫範囲がハビタット区分1と区分2の境界に位置しており、より区分2に被るようになった



### ■3-7 工事における環境保全対策① ～騒音対策～



工事では、水質と騒音・振動の環境保全対策を実施した。

#### ■消音装置・防音カバーによる騒音・振動軽減



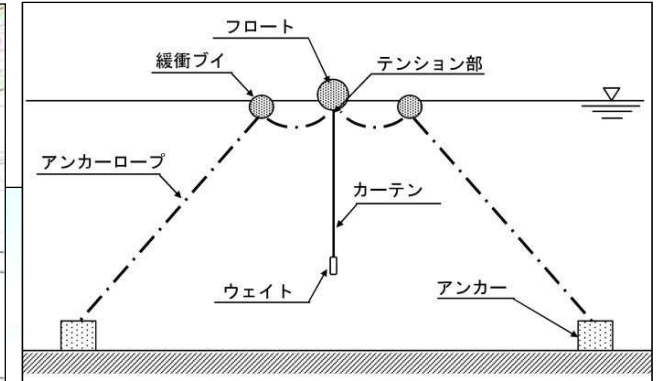
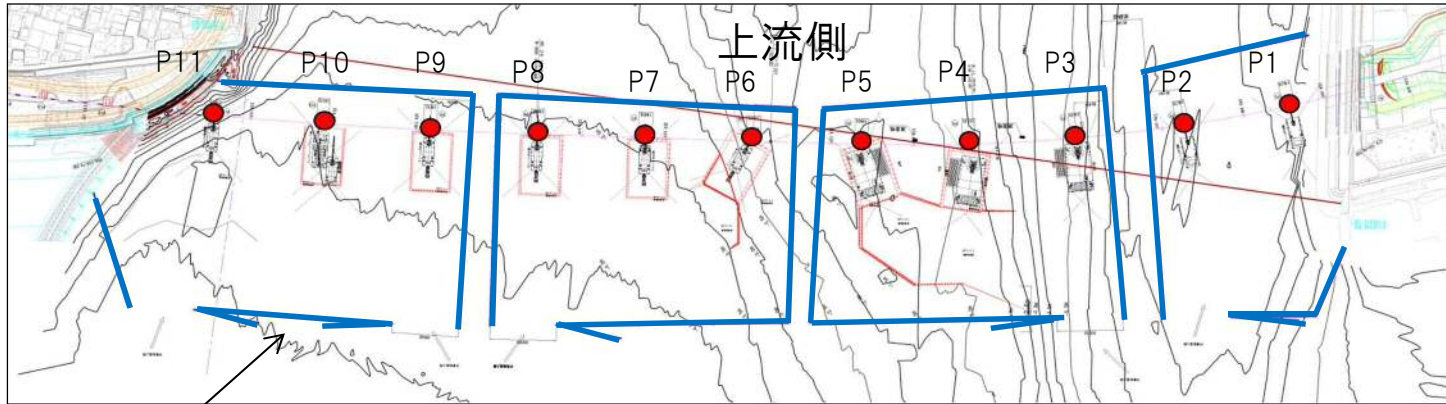


# ■3-8 工事における環境保全対策② ～水質汚濁対策～



工事では、水質と騒音・振動の環境保全対策を実施した。

## ■汚濁拡散防止膜による濁りの拡散抑制



汚濁拡散防止膜

